

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	ロケーション関連事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井
		担当者名	森田	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	ロケーション施設管理費(01-01-01)				
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 23年度 ○ 22年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業				
開始年度	○ 昭和 ● 平成 15 年度		根拠		
終期設定	● 有 ○ 無 24 年度		法令等		
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	● 計画 ○ 非計画	
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[Ⅲ]			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]			
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]			
目的	映画、ドラマ、CMなどの撮影を区内に誘致し、映像を通して区のイメージアップを図る。				
対象者等	映画、ドラマ、CMなどの製作会社				
内容	区内公共施設や区内での撮影を誘致するために、施設の提供、手続きの利便性向上等支援を行う。 1 旧道灌山中学校校舎3階の一部を映像制作コーディネータに貸付け、ロケ場所として提供 ①貸付場所 荒川区西日暮里5-37-5 旧道灌山中学校 3階一部346.64㎡(トイレ等共用部分は除く) ②貸付料 月額 223,000円 ③共益費 月額 50,000円 ④使用時間 午前9時～午後9時 2 ロケに関する相談受付、情報提供、区施設使用に係る連絡調整 3 区内のスポットや店舗などがテレビ等のロケで使用された実績の調査				
経過	平成13年 3月 道灌山中学校校舎 9月 校舎をACCに無償貸与 平成15年 2月 ACCがロケ場所として提供(映像制作コーディネータに貸付け) 10月 ACCへの無償貸与中止、区が映像制作コーディネータに貸付け 平成17年 4月 公募により、コーディネータの選定				
必要性	映像を通じた区のイメージアップ及び施設の有効活用を図ることができる。				
実施方法	(2一部委託) (直営の場合 ● 常勤 ● 非常勤 ○ 臨時職員) 荒川区ロケーション活動調査委託(委託先:荒川ケーブルテレビ) 契約額252千円(23年度)				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	予算額	6,185	1,409	1,382	1,396	1,352	1,597	1,383
	①決算額（23年度は見込み）	570	629	627	647	666	777	1,383
	②人件費等	3,062	904	1,342	424	1,018	1,570	
	③減価償却費						1,017	
	【事務分担当】（％）	50	25	30	25	30	35	
	合計（①＋②＋③）	3,632	1,533	1,969	1,071	1,684	3,364	1,383
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
その他（特定財源）	4,202	6,585	3,276	3,276	3,276	3,276	3,276	
一般財源	-570	-5,052	-1,307	-2,205	-1,592	88	-1,893	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	旧道灌山中学校利用件数	145	80	73	58	72	62	75
	その他区施設でのロケ件数	34	23	27	36	33	44	50
	ロケに関する相談等受付件数		73	51	90	59	91	100

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	光熱水費	電気料	78	電気料	63	電気料	95
	需用費	建物修繕ほか	8	建物修繕	0	建物修繕ほか	580
	役務費	受水槽清掃	12	受水槽清掃ほか	12	受水槽清掃ほか	12
	委託料	清掃、管理、警備	568	清掃、管理、警備、ロケ調査	702	清掃、管理、警備、ロケ調査	696

指標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	①	旧道灌山中学校利用件数	58	72	62	75	80	暫定利用（平成25年3月まで）
	②	その他の区施設でのロケ件数	36	33	44	50	50	公園、体育館等の利用状況
	③							

（問題点・課題）	①撮影の誘致を拡大するための具体的PR方策が不足している。 ②ロケの実施が区内産業の活性化に直接的に結びついていない。							
他区の実況	（実施 2 区 未実施 区）							
	台東区フィルムコミッション（平成17年度～） 学校施設の提供は、台東区、豊島区が実施							

問題点・課題の改善策検討		
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	ロケーション活動調査の分析結果を基に、区内での人気スポットを区ホームページ等で重点的にPRする。	ロケ件数の増加が期待できる。
②	区内商店街と連携し、①とリンクしたロケ時の昼食マップの作成やロケ弁当の販売などを旨とする。	ロケ誘致が区内商店の売り上げアップにつながることを期待できる。
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	ロケーション施設の柱である旧道灌山中学校の暫定利用の状況を見定めながら実施する。

議（要質問）	況（会質問）	H14二定 FCの検討について H14三定 「ロケの街」として売り込むための取り組みについて H21一定 「フィルムコミッション」への取り組みについて
--------	--------	---

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	観光情報提供事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井
		担当者名	野沢、山岸、内田、降矢	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	観光情報提供事業（01-02-01）				
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 23年度 ○ 22年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業				
開始年度	○ 昭和 ● 平成 14 年度	根拠			
終期設定	○ 有 ● 無 年度	法令等			
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	● 計画 ○ 非計画	
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[Ⅲ]			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]			
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]			
目的	荒川区の観光情報を区内外に広く提供することによって、区のイメージアップを図るとともに区への来訪者を増やし、地域経済の活性化を図る。				
対象者等	区外の人々及び区への来訪者				
内容	①観光ガイド（イベントカレンダー）の作成（平成14年度～）*平成22年度版から英語版作成 ②HPに区内行事のインターネット動画配信（平成14年度～） 平成18年度から9件（都電荒川線沿線のバラ、素盞雄神社天王祭、諏方神社御神幸祭、胡録神社例大祭、尾久八幡神社例大祭、仲町通り阿波踊り大会、元三島神社大祭、石浜神社神幸祭、熊野前サンバカーニバル）を常時配信 ③平成21年度、②で製作した動画のダイジェスト版を作成（5イベント） ④HPに都電荒川線花見どころサイトの開設（平成14年度～） ⑤まちあるきマップの作成（平成17年度 日暮里・南千住、18年度 都電荒川線沿線、19年度 日暮里・南千住改訂、20年度 都電荒川線沿線に舎人ライナーを含め改訂、21年度 日暮里・南千住改訂、日暮里・谷中マップ作成、22年度 都電舎人ライナー沿線、23年度予定 日暮里改訂、千住散策マップ作成） ⑥観光PR協力所の設置66か所（H23.6.1現在） ⑦都電荒川線散策マップ（平成19年度） ⑧行政観光パンフレットの作成（平成20年度作成、23年度改訂予定） ⑨観光スポット特集冊子の作成（平成20年度） ⑩区HPのトップページに観光情報バナーを開設（平成21年度）				
経過	平成22年度から観光ボランティアガイドを受入体制整備事業へ移管した。				
必要性	多様な情報発信により区のイメージアップ及び来訪者の増加を図ることができる。				
実施方法	（1直営）（直営の場合 ● 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員）				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	予算額	2,775	2,816	5,933	10,000	5,681	6,984	4,257
	①決算額（23年度は見込み）	3,155	2,391	4,776	6,411	4,738	3,590	4,257
	②人件費等	6,033	9,394	11,102	11,255	9,895	11,476	
	③減価償却費						3,922	
	【事務分担当】（%）	70	110	130	140	125	135	
	合計（①+②+③）	9,188	11,785	15,878	17,666	14,633	18,988	4,257
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）						184	
	一般財源	9,188	11,785	15,878	17,666	14,633	18,804	4,257
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	観光ガイド(イベントカレンダー)	20,000部	20,000部	20,000部	20,000部	32,000部	33,000部	33,000部
	まちあるきマップ	116,000部	56,000部	116,000部	68,000部	160,000部	92,000部	118,000部
	観光PR協力所設置件数(延べ)			38カ所	51カ所	64カ所	66カ所	70カ所

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	観光ガイド養成講座謝礼	43	翻訳データ校閲謝礼	99		
	一般需用費	パンフレットスタンド購入等	523	パンフレットスタンド購入等	271	パンフレットスタンド購入等	379
	旅費	観光PR用旅費	305				
	役務費	ボランティア保険	7			パンフレット郵送料	290
	委託料	まちあるきマップほか	3,800	まちあるきマップほか	3,220	まちあるきマップほか	3,588
	備品購入	テレビ	60				

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
①	観光PR協力所の設置件数 (延べ件数)	51	64	66	70	80	区外宿泊施設等も含む
②							
③							

(問題点・課題分析)	①区ホームページにおける観光情報発信の充実が求められる。 ②適切な情報発信のための仕組みが求められる。
他区の状況	(実施 22 区 未実施 区)

問題点・課題の改善策検討		
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	区ホームページについて23年度中に充実を図り、24年度は適宜改善を行う。	区ホームページにおける観光情報ページの利用価値が上がることにより、閲覧者が増え、さらには来訪者の増加につながることを期待できる。
②	広報課等と連携して23年度中に観光情報の集約及び発信の方法についてとりまとめ、24年度はそのスキームに基づいた発信を行う。	適切なタイミング及び手段で情報を発信することにより、イベント等への参加者の増加につながることを期待できる。
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	推進	観光情報パンフレット等については、これまで重点的に推進してきた結果、現在9種類（23年度作成予定含む）を作成しており、内容の充実が図られたため、今後はより効果的な発信について推進していく。

議会質問状況 (要旨)	H16一定	観光振興に学芸員を活用して。
	H16三定	観光組織づくり。観光スポットを売り込む。
	H16三定	コリアンタウンの情報発信をすべきである。
	H16四定	観光ガイド養成講座を開講。菓子問屋ミュージアムの開設。
	H18三定	観光マップの活用を図るため、協力店を募集し、配布拡大を図るべきである。
	H18四定	日暮里、三河島の再開発ビルに「観光案内ステーション」を設置し、観光スポットを発信する。
	H20三定	東京観光情報センターの日暮里駅への誘致について。

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	荒川区観光大使PR事業		部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井
			担当者名	降矢	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（22年度）	荒川区観光大使PR事業(01-02-02)					
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 23年度 ○ 22年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業					
開始年度	○ 昭和 ● 平成 18 年度		根拠	荒川区観光大使設置要綱		
終期設定	○ 有 ● 無 年度		法令等			
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準			計画区分	● 計画 ○ 非計画	
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[Ⅲ]				
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]				
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]				
目的	区の魅力を積極的に紹介していただける著名人を「荒川区観光大使」として任命し、幅広い人脈やネットワークを活かした協力を頂き、荒川区のPRとイメージアップを図る。 また、小中学生が区外児童生徒との交流を通じて「あらかわ魅力伝え隊」として区のPR活動を行うことによって、郷土意識の醸成を図る。					
対象者等	・ 荒川区在住又は出身者で、区に愛着を持ち、区の魅力を積極的に紹介していただける著名人 ・ 区内小中学生					
内容	実施内容（観光大使） - それぞれの立場において機会あるごとに荒川区のPRをしてもらう。 - 荒川区観光大使の名刺を作成。 - 区長と観光大使との対談を実施し、対談内容をケーブルテレビやホームページ等で情報発信する。 - PR物品として、都電荒川線のポストカード、産業振興シンボルキャラクター「わざ丸」の携帯ストラップを作成。 - 城戸真亜子（洋画家）、三遊亭好楽（落語家）、井崎脩五郎（競馬評論家・タレント）、片岡鶴太郎（俳優・画家）の4名 - 毎月、観光大使に対して、区の最新情報（旬な話題、観光イベント情報等）を提供。 （あらかわの魅力伝え隊） - 観光大使の補助的役割を担う - 区内小中学生が、区外の児童と交流する場において、名刺や観光パンフレットを配布する。					
経過	平成20年度「あらかわの魅力伝え隊」を試行実施（平成21年度～本格実施）					
必要性	著名人の協力による幅広い人脈やネットワークを活かし、区の知名度及びイメージの向上を効果的に図ることができる。					
実施方法	（1直営）（直営の場合 ● 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員）					

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	予算額		1,379	759	686	318	315	586
	①決算額（23年度は見込み）		380	331	343	225	85	586
	②人件費等		7,686	2,562	1,694	1,221	1,308	
	③減価償却費						436	
	【事務分担当】（％）		90	30	20	15	15	
	合計（①＋②＋③）	0	8,066	2,893	2,037	1,446	1,829	586
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
その他（特定財源）								
一般財源	0	8,066	2,893	2,037	1,446	1,829	586	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	観光大使任命(人)		4	0	0	0	0	0
	区長との対談(回)		1	0	0	1	1	1
	PR活動		名刺作成	冊子作成	名刺・ポストカード	ストラップ	ストラップ	名刺作成
	あらかわの魅力伝え隊				2回	1回	1回	1回

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	一般需用費	大使PR物品	176	大使PR物品	53	大使PR物品	182
		昼食会	38	昼食会	22	昼食会	43
	使用料	会場使用料	10	会場使用料	10	PR冊子作成	350
						会場使用料	11

指標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	①	魅力伝え隊活動実績（回）	2	1	1	2	4	学校による他自治体との交流の場の回数
	②							
	③							

（問題点・課題）	観光大使により多くの場で荒川区のPR活動を行ってもらえるよう工夫する必要がある。
他区の実況	（実施 6 区 未実施 16 区） 中央区（ミス中央）3人、台東区（たいとう観光大使）18人、豊島区（ソメイヨシノ桜の観光大使）3人、北区（北区アンバサダー）6人、品川区（観光大使）5人、墨田区（すみだ親善大使）3人

問題点・課題の改善策検討		
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	荒川区の最新動向等について観光大使に常に把握・意識してもらえるよう、23年度中から定期的な情報発信を行う。また、今後は観光大使から区をPRしてもらう機会を創出する（区報や区ホームページへのメッセージ掲載など）。	観光大使による荒川区のPR活動が充実することが期待できる。
②		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	継続	引き続き、観光大使のPR力の活用を図る。

議会議決（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	産業観光推進事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井
		担当者名	播磨、山岸、降矢	内線	461
事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード（22年度）	産業観光推進事業（01-03-01）				
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 23年度 ○ 22年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業				
開始年度	○ 昭和 ● 平成 14 年度	根拠			
終期設定	○ 有 ● 無 年度	法令等			
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	● 計画 ○ 非計画	
行政評価 事業体系	分野	産業革新都市[Ⅲ]			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]			
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]			
目的	荒川区の産業技術や伝統工芸技術、区内で製造・販売されている優れた商品の紹介とPR、そしてモノづくり見学・体験スポットを通じて、モノづくりの街荒川のイメージアップと産業観光を推進する。				
対象者等	商品の製造、販売事業者 区民、区外の人々及び来訪者				
内容	○観光PRコーナーの設置（おすすめ品の販売等）・（平成22年度実績） ①あらかわの伝統技術展、②荒川区産業展（中止）、③TCK大井競馬場、④つくば市産業展、⑤鉄道フェスティバル（尾久駅構内）、⑥路面電車の日、⑦都電荒川線の日、⑧バラの市、⑨まるごとバザールin大垣、⑩おたかい観光展、⑪都庁観光情報センターPRコーナー（伝統工芸、マイスターの実演）、⑫NN36Festival、⑬隅田川駅貨物フェスティバル、⑭金石産業祭り、⑮ゆるキャラサミットin羽生 ※ はブランドの物販あり ○「荒川ブランド」商品を紹介する冊子の作成・配布 平成17年度 荒川のおすすめ品 区民が選んだおみやげ編Part 1 （33商品） 平成18年度 伝統工芸品、荒川マイスター製品編（伝統工芸品47商品、荒川マイスター製品17商品）（計64商品） 平成20年度 伝統工芸品、荒川マイスター製品編改訂（伝統工芸品44商品、荒川マイスター製品18商品）（計62商品） 平成22年度 伝統工芸品、荒川マイスター製品編改訂（伝統工芸品43商品、荒川マイスター製品19商品）（計62商品） ○モノづくり見学・体験スポット整備支援事業 「モノづくり」工房や、ギャラリー等を一般公開する者に対し、スポットとして認定する。なお、必要に応じて改修等の費用を補助する。 2/3補助（100万円上限）うち1/2は都補助あり 平成19年度 2件 平成20年度 6件 平成21年度 4件（計12件） 平成22年度 3件（計14件）※1件廃止あり				
経過	○平成20年度 ①都電ウォークラリーは分離し、単独事業へ。②荒川ブランドセールスプロモーション事業を統合した。 ③伝統技術展は経営支援課へ移行した。 ○平成23年度 「駅からハイキング関連事業補助」経費を産業観光推進事業へ組み替え				
必要性	モノづくりの街荒川の地域資源を活かし産業観光を推進することは、地域の産業活性化に資するところが多い。				
実施方法	（1直営 ） （直営の場合 ● 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員 ）				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	予算額	3,900	30,814	11,713	9,552	8,179	8,321	5,443
	①決算額（23年度は見込み）	3,366	4,708	4,814	7,521	3,475	3,324	5,443
	②人件費等	7,996	11,956	11,346	5,929	5,700	7,848	
	③減価償却費						2,615	
	【事務分担当】（％）	100	140	140	70	70	90	
	合計（①＋②＋③）	11,362	16,664	16,160	13,450	9,175	13,787	5,443
	国（特定財源）							
	都（特定財源）			698	2,516	888	672	1,762
その他（特定財源）								
一般財源	11,362	16,664	15,462	10,934	8,287	13,115	3,681	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	PR事業（回）	4	5	9	11	12	15	15
	内、ブランドPRイベント（回）	1	2	7	8	8	10	10
	商品紹介冊子作成（部）	10,000	20,000		20,000		25,000	
	モノづくり見学体験スポット			2	6	4	3	3

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	審査委員謝礼	7	審査委員謝礼等	48	審査委員謝礼等	69
	一般需用費	奥の細道・PR他	532	スポット看板購入	78	荒川ブランドPR	100
	旅費	大垣	142	大垣	71	大垣	72
	委託料	イベントPR設営等	865	イベントPR設営等	2,498	イベントPR設営等	1,902
	使用料	荒川ブランドPR	137	荒川ブランドPR	99	荒川ブランドPR	300
	負担金	スポット補助金	1,446	スポット補助金	234	スポット補助金	3,000
		奥の細道補助等	346	駅ハイ補助	296		

指標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
①	イベント会場での実演・展示実施件数		11件	12件	15件	15件	15件	
	モノづくり見学・体験スポットの件数		8件	12件	14件	17件	20件	数値は累計

（問題点・課題）	① イベント会場でのPR・物販については、効果を検証しながら実施していく必要がある。 ② モノづくり見学・体験スポットのさらなる拡大とPRを進めていく必要がある。						
他区の実況	（実施 5 区 未実施 17 区） 東京都産業を活かした観光ルート整備支援事業活用区 台東区（中小製造業アトリエ化支援事業）、豊島区（伝統工芸を巡る小路案内事業）、墨田区（3M運動ガイドマップ）、板橋区（産業観光整備事業）、江東区（ものづくりマップ作成）						

問題点・課題の改善策検討		
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	イベント会場でのPR・物販は、効果の高いものに集中して重点的に実施する。	より一層の区のPR効果の向上が期待できる。
②	モノづくり見学・体験スポット認定事業者間の横の連携を深めることにより、線さらには面として来訪者等を受け入れる体制を整備する。	「モノづくりの街荒川」のイメージを強化することにより、地域産業活性化への波及効果が期待できる。
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	モノづくり見学・体験スポットの新規開拓及び更なる周知を図る。

状況（要旨）	H17二定 産業観光の視点で、姉妹友好都市交流をするべき。 H17二定 日暮里・舎人線の開通に合わせて、イベントを開催してはどうか。 H18一定 観光産業振興を図るため、花電車を走らせたかどうか。 H18四定 都電を活用し、荒川区の観光振興を図るべきである。
--------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	観光イベント助成	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井
		担当者名	内田、森田	内線	461
事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード（22年度）	川の手荒川まつり事業（01-04-01） 観光イベント助成（01-04-02）				
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 23年度 ○ 22年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業				
開始年度	● 昭和 ○ 平成 62 年度 根拠 荒川区観光振興事業補助金交付要綱				
終期設定	○ 有 ● 無 年度 法令等 川の手荒川まつり実行委員会実施事業補助金交付要綱				
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準 計画区分 ● 計画 ○ 非計画				
行政評価 事業体系	分野	産業革新都市[Ⅲ]			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]			
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]			
目的	区民の開催する観光事業を支援し、区民とともに観光資源を育成する。				
対象者等	区民主体の民間団体				
内容	1 川の手荒川まつり実行委員会補助 ・平成18年度 南千住野球場 20,004千円（20回記念シンポジウムや郷土芸能の祭典） ・平成19年度 東尾久運動場 7,465千円 平成20年度 荒川遊園運動場 7,832千円 ・平成21年度 汐入公園 7,875千円 平成22年度 南千住野球場 8,191千円 2 観光振興事業補助 ・平成17年度 1件 50千円 ・平成18年度 2件 100千円（ホテル鑑賞の夕べ 50千円、矢立初めの俳句大会 50千円） ・平成19年度 4件 180千円（ダイヤモンド富士 50千円、鈴虫の音色を聞く会 30千円、矢立初めの俳句大会 50千円、隅田川お花見クルーズ 50千円） ・平成20年度 5件 1,182千円（日暮里舎人開業イベント 1,000千円、鈴虫の音色を聞く会 32千円、矢立初めの俳句大会 50千円、隅田川お花見クルーズ 50千円、日暮里繊維街マップ作成 50千円） ・平成21年度 5件 1,149千円（日暮里さくら祭り 973千円、鈴虫の音色を聞く会 26千円、矢立初めの俳句大会 50千円、隅田川お花見クルーズ 50千円、左内まつり 50千円） ・平成22年度 3件 243千円（日暮里駅前広場イベント 167千円、鈴虫の音色を聞く会 26千円、矢立初めの俳句大会 50千円） 3 駅からハイキングにおける商店街PRのための補助 多数の外客が見込めるイベント等において、下町商店街の魅力を伝え、再訪を促す取り組みを実施した。 平成20年度（芭蕉旅立ちの日(碑)と下町商店街散策） 平成21年度（下町商店街とバラの街「あらかわ」めぐり） 平成22年度（下町商店街とバラの街「あらかわ」めぐり）				
経過	○川の手荒川まつり 昭和62年以来、（計5回を除き）毎年4月29日（祝）に実施。17年の実行委員会において開催場所を南千住野球場、東尾久運動場、荒川遊園運動場、汐入公園で毎年開催することをルール化した。 ○平成23年度 ・「駅からハイキング関連事業補助」経費を産業観光推進事業から組み替え。 ・「シダレザクラ祭り補助金」が公園緑地課に移管。				
必要性	区民・地域団体等が実施するイベントを支援することで、より多くの集客の機会を創出することが出来る。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 ● 常勤 ● 非常勤 ● 臨時職員）				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	予算額	10,075	28,920	10,074	12,688	12,340	12,310	10,407
	①決算額（23年度は見込み）	9,221	22,316	9,927	11,490	11,845	11,218	1,614
	②人件費等	12,158	6,694	9,271	10,049	9,798	11,737	
	③減価償却費						4,503	
	【事務分担当】（％）	170	100	130	140	145	155	
	合計（①＋②＋③）	21,379	29,010	19,198	21,539	21,643	27,458	1,614
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
その他（特定財源）								
一般財源	21,379	29,010	19,198	21,539	21,643	27,458	1,614	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	シダレザクラ祭り参加者	3,000人	5,000人	7,000人	7,000人	8,500人	10,000人	中止(移管)
	事業補助金（日暮里イベント含む）	1件	2件	4件	5件	5件	3件	5件
	川の手荒川まつり来場者	40千人	60千人	60千人	60千人	60千人	60千人	中止
	川の手荒川まつり参加団体	121	136	134	139	147	146	中止

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	補助金	シダレザクラ祭り補助金	2,165	シダレザクラ祭り補助金	2,138	事業補助金	250
		事業補助金	176	事業補助金	76	駅ハイ補助金	300
		川の手荒川まつり補助金	7,875	川の手荒川まつり補助金	8,191	川の手荒川まつり補助金	8,200
		日暮里イベント	973	日暮里イベント	167	日暮里イベント	1,000
	一般賃金	臨時職員	817	臨時職員	518	臨時職員	538
	時間外手	時間外勤務手当	138	時間外勤務手当	128	時間外勤務手当	119

指標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
①	観光事業補助金申請件数		5件	5件	3件	5件	5件	
	川の手荒川まつり来場者数 (人)		60千人	60千人	60千人	中止	60千人	
	③							

問題点・課題 (指標分析)	(指標の数値は、天候等外部的な要因で左右されるため、達成困難な場合が想定されるものである。)						
	(実施区 未実施区)						

問題点・課題の改善策検討		
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	地域団体等が実施する区外からの誘客策となるイベントを、助成という支援を通じて発掘・育成する。	区民主体の観光誘客に資するイベントを支援することにより、地域全体で観光機会の創出が出来る。
②		
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	区民・事業者の自主的活動こそが、観光振興による地域活性化を図る上で欠かせないものであり、支援を進める必要がある。

議会 (要旨)	H16一定 沿線商店街と連携した都電乗客サービスの提供と路面電車サミットの開催について H14三定 都電沿線の文化祭における区及び地元商店街の関わり方について
------------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	観光振興懇談会運営費	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井
		担当者名	播磨	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（22年度）	観光振興懇談会運営費(01-05-01)				
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 23年度 ○ 22年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業				
開始年度	○ 昭和 ● 平成 18 年度	根拠	荒川区観光振興懇談会設置要綱		
終期設定	○ 有 ● 無 年度	法令等			
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	● 計画 ○ 非計画	
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[Ⅲ]			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]			
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]			
目的	観光に関する様々な分野の有識者で構成する懇談会において、区の観光振興の目指すべき方向とその実現のために必要な具体的施策等について検討いただき、その提言に基づき、区の観光振興施策の効果的な推進を図る。				
対象者等	学識経験者、観光関係団体、観光・交通事業者、産業団体関係者等				
内容	【平成18年度】 懇談事項 1 区内の観光及び観光資源の現状 2 これまでの観光振興施策 3 他自治体における事例等の調査研究 4 調査機関による基礎調査の分析・検討 5 観光振興施策の今後の方向性及び具体的施策 【平成19～22年度】 18年度の調査報告書、懇談会提言に基づく区の観光施策の実施状況やその他の社会情勢変化に伴う見直し等の検討・検証 【視察経過】 第4回懇談会 川越市視察 第8回懇談会 都電荒川線荒川車庫等、区内視察 第9回懇談会 山谷(城北旅館組合)・谷中地域視察				
経過					
必要性	専門家からの提言・示唆を活かすことで、より効果的な区の観光振興施策を推進していくことが出来る。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 ● 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員)				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	予算額		8,357	2,142	1,104	765	669	773
	①決算額（23年度は見込み）		6,050	412	474	109	108	773
	②人件費等		7,686	3,416	2,541	814	872	
	③減価償却費						291	
	【事務分担量】（％）		90	40	30	10	10	
	合計（①＋②＋③）	0	13,736	3,828	3,015	923	1,271	773
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
その他（特定財源）								
一般財源	0	13,736	3,828	3,015	923	1,271	773	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	観光基礎調査			実施				
	懇談会			5回	2回	1回	1回	1回

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	委員報酬	79	委員報酬	79	委員報酬	535
	旅費	旅費等	2	旅費等	1	旅費等	27
	食糧費	賄い	8	賄い	8	賄い	42
	一般需用	消耗品	0	消耗品	0	消耗品	50
	役務費	テープ反訳	20	テープ反訳	20	テープ反訳	105
	使用料	会場使用料	0	会場使用料	0	会場使用料	14

指標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
①								
②								
③								

（問題点・課題）	懇談会の提言内容を具体的な施策として実現していくこと。							
他区の実況	（実施 7 区 未実施 15 区）							

問題点・課題の改善策検討		
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	荒川区を取り巻く観光状況等の変化に対応した、新たな方向性の提言。	状況の変化に対応することにより、より効果的な施策の実施が可能となる。
②		
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	継続	引き続き、区としての観光振興施策の今後の方向性を検討し、施策の充実を図る。

議（要旨）	
-------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	都電荒川線活用事業		部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井
			担当者名	播磨、野沢、山岸、内田	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（22年度）	都電荒川線活用事業（01-03-02）					
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 23年度 ○ 22年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業					
開始年度	○ 昭和 ● 平成 19 年度		根拠			
終期設定	○ 有 ● 無 年度		法令等			
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準			計画区分	● 計画 ○ 非計画	
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[Ⅲ]				
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]				
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]				
目的	区の観光資源である都電荒川線を活用し、区外からの観光客を呼び込む。特に23年度は100周年記念として庁内、実行委員会と連携した記念事業を展開することにより、より一層の知名度及びイメージの向上を図る。					
対象者等	区民、区外の人々及び来訪者					
内容	○都電荒川線ウォークラリー 【平成20年度】 ・開催日：10月12日（日） ・実施主体：荒川区及び北区（主催）、東京商工会議所荒川支部（共催） ・コース：4コース（南千住、町屋、尾久・梶原、王子） ・区内参加商店街：9商店街 【平成21年度】 ・開催日：10月17日（土） ・実施主体：荒川区及び北区（主催）、東京商工会議所荒川支部（共催）、東京都交通局（後援） ・コース：5コース（南千住、町屋、尾久、王子、滝野川） ・区内参加商店街：9商店街 【平成22年度】 ・開催日：10月30日（土） ・実施主体：荒川区及び北区（主催）、東京商工会議所荒川支部及び東京都交通局（共催） ・コース：5コース（南千住、町屋、尾久、王子、滝野川） ・区内参加商店街：10商店街 ○都電荒川線100周年記念事業（予定）※平成23年度のみ 【荒川区主催事業】 ・都電100周年ツアー、都電100周年企画展（ふるさと文化館）など 【記念事業実行委員会主催事業】※荒川区、北区、豊島区、新宿区及び都交通局 ・都電サミット（7/24）、都電荒川線沿線絵画コンテスト、花電車の運行、特設HP開設					
経過	平成23年度は都電荒川線が100周年を迎えるため、沿線4区及び交通局と協力して、また荒川区独自で、都電に関連した各種イベントを実施する。					
必要性	区の観光資源である都電荒川線を中心としたイベントを開催することにより、区のイメージアップ・PRにとどまらず商店街の活性化に寄与するところは大きいと考える。					
実施方法	（1直営）（直営の場合 ● 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員）					

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	予算額			1,153	1,087	1,113	1,205	1,972
	①決算額（23年度は見込み）			876	876	971	802	1,972
	②人件費等				2,965	2,850	3,052	
	③減価償却費						1,017	
	【事務分担量】（％）				35	35	35	
	合計（①＋②＋③）	0	0	876	3,841	3,821	4,871	1,972
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	876	3,841	3,821	4,871	1,972	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	都電荒川線沿線ウォークラリー			実施	実施	実施	実施	実施
	都電荒川線100周年記念事業							実施

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	一般需用費	参加記念品ほか	124	参加記念品ほか	150	参加記念品ほか	243
		台紙、ポスター印刷	336	台紙、ポスター印刷	273	台紙、ポスター印刷	351
	役務費	ポスター掲出料	26	ポスター掲出料	0		
	委託料	会場設営委託ほか	389	会場設営委託ほか	379	会場設営委託ほか	417
	使用賃					都電等貸切（ツアー）	161
	負担金補助					100周年事業負担金	800

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
①	都電荒川線沿線ウォークラリー参加者数（人）	1,250	1,301	306	1,500	2,000	22年度は荒天のため時間短縮
	②						
	③						

（問題点・課題）	（指標数値は、天候等外部的な要因で左右されるため、達成困難な場合が想定されるものである。）						
	①ウォークラリーについては一定の集客が見込めるイベントとして定着してきているので、一層の地域の活性化につなげていくため、さらに成長させていく必要がある。 ②平成23年度は、都電100周年を迎えることから、各方面と協力して、誘客の契機とするための様々な事業を実施していく必要がある。						
他区の実況	（実施 3 区 未実施 区） 港区 「MINATO WALK みんなで歩こう！」 品川区・大田区「つまみぐいウォーク」 足立区 「菖蒲まつり&ウォークラリー」 目黒区 「さんま・たけのこスタンプラリー」						

問題点・課題の改善策検討		
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	ウォークラリー参加者のアンケート結果を分析することにより創意工夫を図っていく。	イベントの魅力を高めることで、参加者の増加につながることを期待できる。
②	都電100周年関連事業の実施を通じて育んだ沿線自治体や地域事業者との連携を活用し、継続的にイベント等を開催する。	都電荒川線を沿線全体で盛り上げていくことにより、地域の活性化につながることを期待できる。
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	重点的に推進	今年度は都電荒川線100周年にあたるため、民間や他自治体等との連携を図りながら、関連事業等を実施していく。

議会議決（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	受入体制整備事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井
		担当者名	野沢、山岸、降矢	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	受入体制整備事業（01-03-03）				
事務事業の種類	● 新規事業（○ 23年度 ○ 22年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業				
開始年度	○ 昭和 ● 平成 17 年度	根拠	荒川区外国人来訪者受入体制整備支援事業補助金交付要綱		
終期設定	○ 有 ● 無 年度	法令等			
実施基準	○ 法令基準内 ● 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	● 計画 ○ 非計画	
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[Ⅲ]			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]			
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]			
目的	観光客の多様なニーズに対応できる受入環境の整備促進のため、外国人旅行者にも配慮した外国語（英語、中国語、ハングル）標記の観光案内標識を整備するとともに、観光ボランティアガイドによる案内を促進させることにより、来訪者の受入体制の充実を図る。				
対象者等	来訪者				
内容	1 観光案内標識設置事業 東京都観光案内標識設置補助金交付要綱に基づく補助事業 17年度 日暮里地区 4基 18年度 南千住地区 5基 19年度 都電荒川線沿線 5基 20年度 隅田川沿岸 5基 21年度 日暮里地区の改定、標識清掃の開始、 22年度 南千住地区の改定、三ノ輪停留場標識を都から移管 2 外国人来訪者受入体制整備支援事業(平成20年度～) ・外国語版ホームページ・パンフレットの作成支援：区内の宿泊施設を営む事業者が外国語版のホームページ又はパンフレットを新規に作成する場合の初期経費の一部（3分の2上限20万円）を補助する（助成件数：20年度2件、21年度1件、22年度1件）。 3 観光ボランティアガイド (1)養成講座の実施（（平成18年度全10回27人登録、19年度全10回15人登録、20年度全10回23人登録、21年度全10回6人登録、22年度前10回16人登録） ＊登録者数72人 (2)観光ボランティアガイドの活動（平成18年度～）				
経過	観光案内標識設置事業：平成17年度事業開始(04-03-08観光案内標識設置事業から組み替え) 外国人来訪者受入体制整備支援事業：平成20年度事業開始 観光ボランティアガイド事業：平成22年度から観光情報提供事業より移管				
必要性	多言語の観光ボランティアガイドによる案内や標識等の整備を進めることは、来訪客の満足度を高め、リピーターとしての来訪増加が期待出来る。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 ● 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員)				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	予算額	6,000	7,500	6,000	10,005	2,262	2,868	1,690
	①決算額（23年度は見込み）	4,809	5,576	5,961	6,635	1,540	1,890	1,690
	②人件費等	3,448	3,416	3,416	5,082	3,257	3,924	
	③減価償却費						1,307	
	【事務分担当】（％）	40	40	40	60	40	45	
	合計（①＋②＋③）	8,257	8,992	9,377	11,717	4,797	7,121	1,690
	国（特定財源）							
	都（特定財源）	4,809	5,575	5,961	6,238	0		
その他（特定財源）								
一般財源	3,448	3,417	3,416	5,479	4,797	7,121	1,690	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	観光案内標識設置(改定)	4	5	5	5	(4)	(5)	(5)
	外国語版HP作成支援				2	1	1	2
	ガイド活動		2	7	9	16	23	30

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費			ガイド養成講座謝礼	38	ガイド養成講座謝礼	104
	需用費			ガイド消耗品等	167	ガイド消耗品等	269
	役務費			ガイドボランティア保険等	17	ガイドボランティア保険等	25
	委託料	標識更新委託等	1,162	標識更新委託	1,228	標識更新委託	457
		標識清掃委託	178	標識清掃委託	200	標識清掃委託	235
	使用料			ガイド視察バス借上	40	ガイド視察バス借上	0
	補助金	外国語版HP作成支援	200	外国語版HP作成支援	200	外国語版HP作成支援	600

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
①	設置標識数	19基	19基	19基	19基	20基	数値は累計
	外国語版HP等作成支援	2件	3件	4件	6件	8件	数値は累計
	観光ボランティアガイドの活動	9回	16回	23回	30回	36回	来訪者からの依頼に基く活動数

問題点・課題 (指標分析)	①多様なニーズに対応できるよう、観光ボランティアガイドの資質をさらに向上させるとともに、活動する場を拡大することが必要である。 ②外国人来訪者のニーズを把握することが難しく、また彼らに対しての情報発信の手段が少ない。
他区の状況	（実施 6 区 未実施 16 区） 観光案内標識…台東区、豊島区、中央区、葛飾区、千代田区、足立区他

問題点・課題の改善策検討		
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	活動にあまり参加していないボランティアガイドの掘り起こしのため、再講習などを実施する。	ボランティアガイド全体としての資質の底上げを図ることにより、受入体制がより充実する。
②	23年度中に産業国際化推進員による調査研究や、区内在住外国人と接触を図ることでニーズの把握を進め、24年度はその情報を活用した受入体制の整備やPRを実施していく。	外国人の視点に立った環境の整備や情報PRを進めることで、来訪者の増加につながることを期待できる。
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	中国を中心とする海外からの来訪者数の回復を見込んで更なる来訪者増加を目指すため、受入体制の整備を進める必要性は高い。

議会 (要旨)	状況
------------	----